別記様式第４（第３条関係）

研　究　業　績　目　録

氏　名　（自筆署名）　　　　　　　　　　　　　　（西暦）　　年　　月　　日現在

別記様式第４（第３条関係）

**記　入　例**

【研究業績に重点を置いた評価】

研　究　業　績　目　録

氏　名　　　○　　○　　○　　○　　　　　　　　　　　２０１〇年○月○日現在

著書

１）筑波花子，茨城太郎『○○に関する研究』○○出版社，2014年，330頁。

２）筑波花子「○○に関する研究」（○○○研究会編『○○の分析』○○大学出版部， ○○～○○頁）2013年。

査読付学術雑誌論文

１）筑波花子「○○の考察」（『○○論文集』12巻3号），　[印刷中]。

【証明書を添付すること】

２）Tsukuba Hanako, Taro Ibaraki, “Japan and China, 1900-1910,” *Journal of Asian Studies*, Vol. 2, No. 4, pp. 30-41, April 2013.

査読付国際会議論文

１）Tsukuba Hanako, “On the Disclosure of Diplomatic Records,” *Proceeding of 17th International Congress of East Asian History*, Macao, April 2012, 14 pages【PDF版】.

その他　　著書○件　査読付学術雑誌論文○件　査読付国際会議論文○件

　ほか（○○等）○件

「研究業績目録」の記入要領

【研究業績に重点を置いた評価】

１　署名を除いて，ワープロ等で作成すること。（Ａ４判用紙を用いて，上下左右とも２cm程度の余白をとること。手書きの場合については，黒インク又は黒ボールペンを使用し，楷書体で記入すること。）

２　年号は西暦で記入すること。

３　この「研究業績目録」のほかに，「研究業績」の全リスト（様式任意，参考様式を参照）を別途作成のうえ，提出すること。

４　「研究業績目録」には，最近５年間のものの中から，重要と思われる業績（教授の選考審査の場合は５件、准教授の選考審査の場合は４件以上、助教の選考審査の場合は２件以上、特任助教の選考審査の場合は１件以上）を記載すること。

ただし，最近５年以前の研究業績であっても，候補者の業績の中で特に重要な位置付けができるものは１件に限り含めることができる（特任助教の選考審査の場合を除く）。

注意点：本学教員の昇任人事の場合は，現職就任時の審査に使用した業績を使用することはできない。

５　記載する業績の基準は，以下のとおりとする。

・教授の選考審査の場合　　：査読付き又はこれに相当する業績を３件以上含むものとする。

博士論文は含めない。ただし、博士論文に加筆等を行って、著書として公刊したものは含めることができる。

　　・准教授の選考審査の場合　：査読付き又はこれに相当する業績を２件以上含むものとする。

博士論文は含めない。ただし、博士論文に加筆等を行って、著書として公刊したものは含めることができる。

　　・助教の選考審査の場合　　：修士論文は含めない。

　　・特任助教の選考審査の場合：修士論文は含めない。

６　著書は，著者リスト，著書名，発行所，頁，発表年の順に記載し，著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は，著書名の前に分担した章名等を記入すること。

７　学術論文は，著者リスト，論文名，雑誌名，巻，頁，発表年の順に記載し，本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し，何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。

８　印刷中のものは「印刷中」と明記したうえで記載できる。この場合には，発行者の刊行(出版)証明書，又は査読等を経て正式に受理されたことが証明できる書類を添付すること。（記入例を参照）

９　別記様式第４（第３条関係）の「その他」の欄における研究業績の分類は，それぞれの組織の分類に従って記述してよい。

10　「記入例」について

　　記入例に厳密に従わなくとも，業績の特定ができ，かつ，その量及び発表時期が明記できていれば，それぞれの組織や研究分野の様式に従って記載してよい。